

防災備蓄ポイント制度で八王子の大学生を救え！！

Save the University Students of Hachioji with Emergency Kit Point System

チーム kanban

恩田綾佳, 平良日菜子, 原田莉穂

指導教員 勘坂純市

創価大学 経済学部 経済学科

キーワード：防災備蓄，大学生，地域共助，自助

1. 研究概要

本研究は「置いてある」が当たり前、あの時用意しておけば良かった、と後悔しない社会の実現を目的とし、八王子の大学生の防災備蓄率向上を目指す。日本は災害が多い国であり、その発生件数と被害件数は年々増加傾向にある。災害時に起きる様々な問題から身を守るには、極力行政や公共機関に頼らず、個人の備え（自助）、有事の際の地域内での助け合い（共助）が必要である。私たちは八王子市に備蓄率の低い大学生が多く住んでいることや地形的要件に着目し、備蓄の機会として、八王子市内での地域ボランティア活動の対価として防災備蓄品を提供する仕組みを提案する。

2. 現状分析

はじめに災害発生件数から見ていく。国土交通省によると台風発生数は年々増加傾向にあり、人的被害を伴う地震も毎年発生している中で、人々の災害増加への警戒心は高まっている。損保ジャパン日本興亜が2019年に行った「災害の備えに関するアンケート」では、東日本大震災以降、「あなたの防災意識は高まったか？」との質問に対し、76.9%の人が「防災意識が高まった」と回答している。しかし、防災対策実施率はわずか44%で半数に届いていない。また、年代別、防災実施率、男女別で見ると、何も準備していない人の割合が男女共に20代が高く、男性39.2%、女性32.7%（インテージリサーチ「防災意識に関するアンケート」（2017））となっており、他の年

代と比較しても男女20代が最も防災対策に取り組んでいない。ここでエリア選定に際し、東京都の土砂災害警戒区域15,478箇所のうち3,655箇所は八王子市にあり、都内最多となる。20代に差し掛かる大学生が多いという特徴と併せ、八王子市で20代の防災備蓄率向上の施策を行う意義が認められる。

災害時に起こる問題として、災害前の買い占め、災害後の陳列商品の不足、避難所の収容人数の限界と必要な物資が行き渡らないこと、移動時の二次災害リスクなどが挙げられる。ここで、「備蓄をする」という行動をとっていれば、昨今のコロナウイルス感染リスク低下等のメリットが挙げられる自宅避難の選択肢が可能になる。他の年代と比較しても体力のある大学生が不需要に避難所に行かずに、自分で身を守ることができるようになる（自助）ことも、上記の問題の回避に繋がる。

備蓄をしない理由について、八王子で一人暮らしをしている学生（n=78）にアンケートをとったところ、「用意する機会がない」が38.3%で最も多く、次に「何を用意したらよいかわからない」が21.3%、3番目に「お金がない」が12.8%であった。つまり、大学生が防災用品を準備するには、自分でセットを揃える手間を省くことと、金銭的負担を軽減させることが必要になる。さらに、八王子在住の学生は地方から転入してくる割合が大きく、地域社会に馴染めない場合がほとんどであり共助の欠如が

見られる。また、八王子には、学生との接点を必要としている町会・自治会などの主体がある。それぞれの主体の加入率や認知度を伸ばすための取り組みは既に行われているが、依然として課題を抱えている。以上より、災害時などの有事に活かせる繋がりが持てるよう、地域と学生が関わる機会提供と共に防災備蓄入手の新たな経路の考案を目指す。

3. 提案

上記の通り、災害から身を守るには自助と共助が求められる一方で、現在学生の防災備蓄率は低く（自助の欠如）、地域社会からも孤立している様子が見受けられる（共助の欠如）。ここで私達は、学生の防災備蓄率の向上に向け、「市内の大学生」と「学生との接点を求める八王子の町会・自治会等の主体」とを繋ぐボランティア活動の仕組みを提案する。まず、私達が町会・自治会が求めているボランティア内容や大学生に対する要望についてヒアリングを行い、活動内容の企画を行う。私達自身も大学生であるという点を活かすことで、ヒアリングをもとに自治会のニーズを満たすだけでなく、同年代の若者が参加したいと思えるような企画が行える。同時に、学生に対して活動内容を告知し、ボランティアとして参加したい学生を募る。そしてボランティアに参加した学生に対しポイントを付与し、学生はこれを貯めることで備蓄用品と引き換えが出来るというものである。

4. 今後の取り組み、展望

今後のアクションとしては、八王子の町会・自治会といった主体が学生とどのような接点を求めているのか、また、実際にこのシステムを学生が利用したいか等アンケートを行い学生側の需要をみていく。また展望としては、地域内のつながりを深める趣旨で、八王子市内の中小企業を巻き込んだ企画も考えていきたい。

私たちの施策を通して、「置いてある」が当たり前、あの時用意しておけば良かった、と後悔しない社会の実現を八王子市から広げていきたい。

5. 参考文献

インテージリサーチ「防災意識に関するアンケート」(2017)
<https://www.intage-research.co.jp/lab/report/20170901.html>
国土交通省気象庁
<https://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/tphoon/statistics/generation/generation.html>
国土交通省気象庁
HP<https://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/tphoon/statistics/generation/generation.html>
セコム株式会社 「防災に関する意識調査」(2019)
https://www.secom.co.jp/corporate/release/2019/nr_20191211.html
損保ジャパン日本興亜「災害への備えに関するアンケート」(2019)
https://www.sompo-japan.co.jp/~media/SJNK/files/news/2018/20190226_1.pdf